

社協評価事業（社協力向上プロジェクト事業）総括評価

社協名	社会福祉法人 田布施町社会福祉協議会
第三者評価日	令和2年12月22日（火）
現時点の社協力	<p>（第三者評価者の視点）「社協の現在の姿の一部」</p> <p>○社協活動への理解に基づいた行政による支援体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉活動計画が町の地域福祉計画と一体的に策定されている。 ・人件費も含めた社協組織の維持・強化に向けて行政から財政的な支援が行われている。 <p>○小規模組織ならではの意思疎通の図りやすさ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員間、職員と理事間等の意思疎通が円滑に図られる環境である。 <p>○住民に向けた様々な形での情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社協だより、ボランティア便り等、広報誌が多く発行され、地域福祉活動に関する情報が広く住民に伝えられている。 ・頻回に発行される広報誌に加え、SNS等も活用し、社協等の取組について情報発信を行っている。 <p>○地域における福祉員の存在と福祉員を中心とした連携の場の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内に242人の福祉員がいる。 ・福祉員、自治会長、民生委員・児童委員が地区ごとに集まり、見守り活動や地域の状況等を共有する「福祉員集会」があり、3者による情報交換・連携強化を図る機会を設けている。 <p>○多職種との連携体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町民生委員児童委員協議会の事務局、町ボランティア連絡協議会が社協事務局にあり、民生委員・児童委員やボランティア団体の情報の共有がしやすい。 ・社会福祉法人の地域公益活動推進協議会があり、社会福祉法人の相談事業等具体的な取組を実施している。 <p>（田布施町社協側の視点）「強み：PRポイント」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社協に対する行政からの理解があり、人件費の確保や社協事務局の維持強化に十分支援が得られている。行政と連携を強固にし、お互いの役割分担を意識しつつ活動を展開している。 ・民児協やボランティアの事務局があり、地域福祉を推進していく体制や核となる人々とのつながりがある。また、社会福祉法人の地域公益活動推進協議会もあり、町内の社会福祉法人との連携もできている。 ・小規模組織なので職員間、職員と理事間等の意思疎通が円滑にできている。
3年後にめざす社協像	社協における地域福祉活動及び社協の役割に関するビジョンを明確にし、社協、行政、関係機関、住民等の役割を整理する。

社協力向上 経過レポート	<p>(令和3年度)</p> <p>《実施状況》</p> <p>生活支援体制整備事業は、町内5地域の内麻里府地域に昨年協議体設置。今年7月に城南地域に協議体「お互いさま城南」が設置された。生活支援コーディネーター（第1層行政、第2層社協）を配置し、地域資源の開発、ネットワークの構築、ニーズと取組のマッチングを行う。</p> <p>《成果》</p> <p>麻里府地域は、「困りごと相談ポスト」や「アンケート調査」などに取り組んでいる。</p> <p>城南地域は、発足後間もないが住民が主体となり、地域に必要な支え合いの仕組みづくりなどをグループワーク等で話し合う。生きがい教室への高齢者の移動支援も実施している。</p>
	<p>(令和4年度)</p> <p>《実施状況》</p> <p>町内5地域の内2地域に協議体が設置されている。今年には新たな協議体の設置までには至らなかったが、協議体の必要性を実感できるように促す話し合いの場をもった。</p> <p>《成果》</p> <p>麻里府地域で実施している生きがい教室への高齢者の移動支援や移動販売車の運行を城南地域でも実施した事で、外出の機会や地域でのコミュニケーションの場が増えた。</p>
	<p>(令和5年度)</p> <p>《実施状況》</p> <p>町内5地域の内、麻里府地域と城南地域に続き、令和5年8月、新たに麻郷地域に協議体「互近所さん麻郷」が設置された。住民主体の通いの場を実施する準備をしている。</p> <p>《成果》</p> <p>麻里府地域及び城南地域では現在の活動を継続しながら、第2層協議体を中心に地域の支え合いについて話し合いを進めている。また、麻里府地域に支援員設置に向けた協議を進めた。</p>